

【解答】

- ① イングランド人同士が出会うと、まず天気の話をするという観察は200年以上前と同じくらい今でも的確だ。 ② (c) ③ それから、彼らのほとんどはイングランドの天気のいったい何がそれほど魅力的なのかを理解しようとするのである。 ④ (c)
- ⑤ イングランドの天気は少しも魅力的でなく、イングランド人が天気に興味を持つことは謎である。(44字) ⑥ イングランド人が天気の話をするのは、天気に関心があるからではなく、恥ずかしがり屋の性格を克服して会話を始めるためだ。(58字)
- ⑦ (a) × (b) × (c) ○ (d) × (e) ×

【解説】

① this observation の内容は直前の“When two Englishmen meet, their first talk is of the weather”というジョンソン博士のコメント。全体は〈as ... as〉の構文。「現在の this observation is ... と200年以上前の this observation was ... が同じように的確である」の意味。

② This, however, is the point at which most commentators either stop, or try (and fail) to (2) come up with a convincing explanation for the English fascination with the weather. 「しかしながら、ここがその点なのだ、ほとんどの批評家たちがやめちゃうか、イングランド人が天気に魅了されることについての納得のいく説明を□として(失敗する)。」

come up with ... 「(答えなど)を考えつく」(to find or produce an answer)の意味。(a)「確める」(b)「あきらめる」(c)「作る」(d)「想像する」

③ figure out ... 「…を理解する」その目的語は〈what it is ... fascinating〉の部分。What is it about the English weather that is so fascinating? 「イングランドの天気に関して、それほど魅力的なのはいったい何なのか」という強調構文の疑問文が根底にあって、S + Vの語順に変えた間接疑問「天気のどこがイングランド人にとってそれほど魅力的なのかということ」。**【文構造に注意!!】**参照。

- ④ monotonous 「単調な」 dull 「退屈な」
- (a) イングランドの天気には安全なことは何もない。
(b) イングランドには暖かな日が十分にはない。
(c) イングランドの天気は大変単調で退屈である。

(d) イングランドでは天気を予報するのはとても難しい。To an outsider, the most striking thing about the English weather is that there is not very much of it. 「よそ者(イングランド人以外の人間)にとってイングランドの天気に関して一番目立つことは、イングランドには沢山の天気(の種類)はないということである。」の意味。

itはEnglish weatherを指す。下線部(4)はthere is not a lot of weather in England (the weather in England doesn't change much)とも書き換えられる。

⑤ 第3段落の第1文: ... the English weather is not at all fascinating, and that our interest in it is therefore a mystery の部分をまとめる。

⑥ 最終段落の第2文: English weather-talk is a form of code, developed to help us overcome our natural shyness and actually talk to each other. の部分をまとめる。

a form of code 「一種の決まりごと; 規則; おきて」

⑦ × (a) Foreigners visiting England usually think the English weather is rich in variety and full of danger.

「イングランドを訪ねる外国人はたいいていイングランドの天気は多様性に富み危険が多いと思っている。」

第3段落の第2～3文: “To an outsider, the most striking thing about the English weather is that there is not very much of it. All those phenomena that elsewhere make nature exciting, unpredictable and dangerous — tornadoes, monsoons, blizzards, hailstorms — are almost wholly unknown in the

British Isles.”より、ビル・ブライソンがよそ者にとってイングランドの天気は目立つことがあまりなくて、危険なことがほとんどない、と述べているので、(a)は一致しない。

× (b) Paxman thinks that the remarkable thing about the English weather is that it reminds you of the English countryside.

「パックスマン氏はイングランドの天気の顕著な点は天気がイングランドの田舎を思い起こさせる点にあると考えている。」

第4段落にパックスマン氏の見解が述べられている。その中で、パックスマン氏はイングランドの天気が魅力的だと主張しているが、田舎を思い出させるとは言っていないので、(b)は一致しない。

○ (c) The author senses a kind of patriotic sentiment in Paxman's comment on Bryson.

「著者はブライソン氏に対するパックスマン氏のコメントにある種の愛国的な感情を感じ取っている。」

上記と同じく第4段落の第1文: Jeremy Paxman, in an uncharacteristic and surely unconscious display of patriotism, objects to Bryson's comments より、(c)

は一致する。patriotic 「愛国的な」 sentiment 「感情」
× (d) The author considers that there is some truth in what both Bryson and Paxman say.

「著者はブライソン氏の発言にもパックスマン氏の発言にもいくぶんかの真実が含まれていると感じている。」

第5段落の第1文: My research has convinced me that both Bryson and Paxman are missing the point, which is that our conversations about the weather are not really about the weather at all: に「私の研究を通じて、ブライソン氏とパックスマン氏はどちらも大事な点を見落としていると私は確信するようになった。その大事な点とは、我々イングランド人の天気に関する会話は実は天気の会話でも何でもないのである」で筆者は両者の主張を否定している。(d)は一致しない。

× (e) The author thinks that the English often talk about the weather because they are interested in it.

「著者はイングランド人が天気をよくするのは、彼らが天気に興味があるからであると思っている。」

第5段落の第1文(参照箇所(d)と同じ)より、(e)は一致しない。

【文構造に注意!!】

★ ll. 8～9 ② ② 同格表現

They fail because their premise is mistaken:
they assume that our conversations about the weather are conversations about the weather.

- 同格の対象は直後に展開されることが多いが、離れた場所に現れることがある。their premise とコロン(:)の後ろの **that our conversations about the weather are conversations about the weather** が同格表現。

★ ll. 10～11 ② ④ 強調構文を使った間接疑問

Most of them then try to figure out what it is about the English weather that is so fascinating.
S V

- What is so fascinating about the English weather? のWhatが〈it is ... that〉の強調構文で強調され、疑問文What is it ... that ~? になり、**what it is about the English weather that is so fascinating** という間接疑問の形で、figure out の目的語になっている。

★ not A, but B の変形表現 〈not A: B〉

ll. 31～34 ⑤ ③ ④

Everyone knows, for example, that “Nice day, isn't it?”, “Ooh, isn't it cold?”, “Still raining, eh?”
S V and other variations on the theme
are not requests for information about weather conditions:
they are ritual greetings, conversation-starters or just sounds.

- not A, but B 「AではなくてBである」の変形表現として〈not A: B〉が用いられている。

【出題情報】2013東北学院大・2010成蹊大・2008関西大・2006熊本県立大 英語長文は関西大学と成蹊大学の一部を使用。設問は成蹊大学と熊本県立大学を使用。

【出典】Watching the English — the Hidden Rules of English Behaviour
Kate Fox (著)

- ① Any discussion of English conversation, <like any English conversation>, must begin with the weather. ② And <in this spirit of following tradition>, I shall, <like every other writer on Englishness>, quote Dr. Johnson's famous comment [that "When two Englishmen meet, their first talk is of the weather,"] and point out [that this observation is as accurate now as it was over two hundred years ago]].
- ② This, however, is the point (at which most commentators either stop, or try (and fail) to come up with a convincing explanation (for the English fascination (with the weather))).
- ② They fail <because their premise is mistaken>: they assume [that our conversations (about the weather) are conversations (about the weather)]. ③ <In other words>, they assume [that it is the weather that we are interested in]. ④ Most of them then try to figure out [what it is about the English weather that is so fascinating].
- ③ ① The American-born writer Bill Bryson, for example, concludes [that the English weather is not at all fascinating], and [that our interest (in it) is therefore a mystery]: ② "To an outsider, the most striking thing (about the English weather) is [that there is not very much of it]. ③ All those phenomena (that elsewhere make nature exciting, unpredictable and dangerous) — tornadoes, monsoons, blizzards, hailstorms — are almost wholly unknown in the British Isles."
- ④ ① The English Journalist Jeremy Paxman, <in an uncharacteristic and surely unconscious display of patriotism>, objects to Bryson's comments, and argues [that the English weather is fascinating]:
- ② Bryson misses the point. ③ The English fixation (with the weather) has nothing (to do with drama): ④ the English weather is, <for the most part>, dramatically undramatic, <just like the English countryside>. ⑤ The interest is less in the phenomena themselves, than in their uncertainty ... ⑥ one of the few things (you can say about England <with absolute certainty>) is [that it has a lot of weather]. ⑦ It may not include tropical cyclones but life (at the edge of an ocean and the edge of a continent) means [you can never be entirely sure [what you're going to get]].
- ⑤ ① My research has convinced me [that both Bryson and Paxman are missing the point], which is [that our conversations (about the weather) are not really about the weather at all]:
- ② English weather-talk is a form of code, <developed to help us overcome our natural shyness and actually talk to each other>. ③ Everyone knows, <for example>, [that "Nice day, isn't it?", "Ooh, isn't it cold?", "Still raining, eh?" and other variations on the theme are not requests (for information about weather conditions)]: ④ they are ritual greetings, conversation-starters or just sounds.

パラグラフの概要

- 1 イングランド人の会話は
 天気の話から始まる
 イングランド人の会話も、それについてのどんな議論も天気の話から始まる。
- 2 前提が間違っている
 天気に対するイングランド人の情熱についての説明が失敗するのは前提が間違っているからである。
- 3 イングランドの天気は
 魅力がない
 ビル・ブライソン氏はイングランドの天気は魅力的でなく、なぜ彼らが天気の話をするのか謎であると結論を下している。
- 4 イングランドの天気の
 魅力は不確かさだ
 ジェレミー・パックスマン氏は、イングランド人が興味を持つのはイングランドの天気の不確かさにあり、そこが魅力的なのだと主張している。
- 5 天気の話は会話を始める
 きっかけに過ぎない
 ブライソン氏とパックスマン氏はどちらも外的であり、イングランド人の天気の話は一種の規則であり、儀礼的なあいさつや会話のきっかけなのだと私は確信している。

[100字要約] OPTIONAL の解答

イングランド人の会話は天気の話から始まる。イングランドの天気は魅力がないとか、天気の不確かさが面白いと言う批評家がいるが、イングランド人の天気の話は会話を始めるきっかけに過ぎないと私は確信している。(99語)

<全 訳>

- ① イングランド人の会話についてのどんな議論も、イングランド人のすべての会話と同様に、天気から始まらなければならない。②そして、伝統に従うこの精神から、イングランド人らしさを話題にする他の全ての作家と同様に私は「二人のイングランド人が会おうと、彼らの最初の話は天気に関してである」というジョンソン博士の有名なコメントを引用することとし、この観察は200年以上前と同様に今日の的確であると指摘することにする。
- ② ①しかしながら、ここがその点なのだ、ほとんどの批評家たちがやめてしまうか、イングランド人が天気に魅了されることについての納得のいく説明を考えつこうとして(できない)。②彼らが失敗するのは、彼らの前提が間違っているからである。すなわち、彼らはイングランド人の天気に関する会話が天気に関する会話だと思い込むのである。③言い換えると、我々が興味があるのは天気なのだと彼らは思い込むのである。④それから、彼らのほとんどはイングランドの天気のいったい何がそれほど魅力的なのかを理解しようとするのである。
- ③ ①たとえば、アメリカ生まれの作家であるビル・ブライソン氏は、イングランドの天気は少しも魅力的でなく、イングランド人が天気に興味を持つことがそれゆえに謎であると結論を下している。②彼いわく「よそ者(イングランド人以外の人間)にとってイングランドの天気に関して一番目立つことは、イングランドには沢山の天気(の種類)はないということである。③どこか他のところでは自然界を刺激的にし、意外にし、危険にするようなすべての自然現象、すなわち竜巻、モンスーン、猛吹雪、ヒョウの嵐、は英国諸島ではほぼまったく知られていないのである。」
- ④ ①イングランド人のジャーナリストのジェレミー・パックスマン氏は、彼らしくないことだが、きつと無意識に祖国愛を表に出して、ブライソン氏のコメントに反対して、イングランドの天気は魅力的だと主張している。
- ②ブライソン氏は大事な点を見落としている。③イングランド人の天気への執着は劇的であることとは関係がないのである。④つまり、イングランドの天気はその大部分がちょうどイングランドの田舎と同じように劇的なまでに感動的でないのである。⑤イングランド人の興味は現象そのものにあるというより、不確かさにあると言えるのである。⑥つまり、イングランドについて絶対的な確かさを持って言える数少ないことの一つは、イングランドでは天気が多様だということである。⑦熱帯性のサイクロンは含まれないかもしれないが、大洋のはずれでそして大陸のはずれで生活するということは、どんな天気になるか確信を持てることは必ずしもないということの意味している。
- ⑤ ①私の研究を通じて、ブライソン氏とパックスマン氏はどちらも大事な点を見落としていると私は確信するようになった。その大事な点とは、我々イングランド人の天気に関する会話は実は天気の会話でも何でもないのである。②すなわち、イングランド人の天気の話は一種の規則のようなものであり、自分たちの生来の恥ずかしがり屋の性格を克服し、実際にお互い会話を始める助けとするために開発されたのである。③たとえば、「いい天気ですね」とか「わー、寒くないですか」とか「まだ雨が降ってますねえ」とかあるいはその話題(天気)に関する他の表現は、お天気の状態についての情報を教えてくれという要求ではないのだ。④それらは、儀礼的なあいさつであったり、会話のきっかけだったり、単なる音だったりののだ。